

# ふるさと Something NEWS

## 第39回

### オンライン会議でふるさと快活

#### ——二つのフリーが時代のトレンド

一般社団法人 洗楓座  
一般社団法人 e f c o . j p  
代表理事 佐藤建吉

#### Zoom会議

年末の今年の流行語には、「コロナ」が候補という状況であるが、その影響として、「新しい生活様式」が進んでいる。「フレワーク」「ソーシャルディスタンス」「Zoom会議」などが、キーワードとして日常社会に広がっている。

筆者も最近、Zoomによるミーティングや打ち合わせが定着してきている。また、ふるさととは、遠いものだという概念も変わり、ZoomやSNSにより、ぐっと距離が近づいた。こうしたなかコロナにより、どう生活が変わったか、またどういう暮らし向きにするかという若者たちによるZoomイベントが行われた。

#### 若者が主役

「新しい生活様式」はコロナ対策から生まれたが、それは「新しい」という言葉が冠されているように、これまでの生活様式を先取りしたものと異なる。それは、若者にと

東京をホスト会場として若者代表のカレッジNOWの編集長・椋澤裕也さんがコーディネーターとなり、地方にいる3名の若者がコメントーターとなり意見交換し、これを全国のZoom参加者が視聴しツイットするオンラインイベント企画であった。テーマは、①withコロナと学生生活、②地域振興と取り組み、③就活のいま、を掲げていた。これを素材にして意見を述べたい。

#### With「コロナ」学生生活

実は、今頃の主役はコロナウイルスであり、世間にはびこり、「With Corona」が開発されている。今回のオンラインイベントでも、withコロナと学生生活が前提として、認識を共有することから始められた。一番目のテーマについては、現役の女子大の4年生の望月優里さんが最初にプレゼンした。望月さんは就活も終えてからのコロナ禍ではあったが、コロナのデメリットについて語られた。

「若者が主役」は、ポジティブな未来志向ではあるが、社会は若者だけではない。50歳代、60歳代、さらにはその上の世代も社会のメンバーとしてこの「新しい」に慣れなければならない。もちろん中高生などには、学校教育として実践される。

#### 地域振興と取り組み

一番目のテーマは、地域振興と銘打っているが、地域活性化での取り組みである。テレワークは、地方への人の流れを促す最良の地域活性化の手段といえる。このオンラインイベントでは、以前このコラムでも紹介した湯澤魁さんが福島県白河市からプレゼンした。

#### 対象の若者

準備された三番目のテーマは就活についてであった。コメントーターには、青森市出身で宮城県や青森県で学生支援活動をしている舩谷一成さんがあった。彼は、大学をさっさと中退し、自らが主役として学生支援をする誇り高い人物であった。その歯切れのいい語り口は、オンラインイベントでも感じ取れた。高校生活から端を発して大學生への就活についても支援している。就活もオンライン化が進み、一変しているようだ。同時に、職場や仕事環境も変化している。

#### 三つの基軸フリー

オンラインイベントのクロージングにおいて、筆者が次のようにまとめを行った。

コロナは社会変革の起爆剤であった。それは、残念ながら一過性ではなく継続する災禍であった。それは戦争の災禍と似ているかもしれない。コロナの場合、始まり、その最中、収束と回復、という三つについてOn

若者によるオンラインイベントの案内



連載

一緒に、しかも地元の高校生の協働を創り出すことである。それは、コンピュータが主導で行われることによる弱点を補完する意味で重要であると思われる。高く広い視点、若い人との協働をつくる活動力、それは地方の快活に功を成す要素といえる。が、そうした雰囲気やオンラインイベントで参加者に伝わったかが課題かもしれない。

ここで、重要な視点が、若者のとらえ方である。オンライン化は、大学への価値や必要性を低下させるだろう。大学の持つ意義や魅力は減退する。大学には、卒業ではなく単位や資格を与えるディプロマや履修証明(サーティフィケート)で需要が増えるだろう。今後、大学よりも専門学校に人気が高まると予想される。したがって、若者を大学生中心にとらえている現状から変更が必要がある。

オンラインイベントのクロージングにおいて、筆者が次のようにまとめを行った。

コロナは社会変革の起爆剤であった。それは、残念ながら一過性ではなく継続する災禍であった。それは戦争の災禍と似ているかもしれない。コロナの場合、始まり、その最中、収束と回復、という三つについてOn

フリー

すなわち、①はテレワークに代表されるように、場所に依存しない社会の広まりである。②は同じく男女の性別に依らない社会である。また③

は、学校や会社の所属到来、学歴歴などの無用化への接近が始まるだろう。これら三つは、もともと大きな「新しい生活様式」になると期待したい。それがトレンドともいえる。